HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	名古屋大学附属図書館蔵小林文庫本『百因縁集』上巻翻刻
著者	追塩，千尋; OISHIO, Chihiro
引用	北海学園大学人文論集(68): 326(一)-282(四五)
発行日	2020-03-31

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

名古屋大学附属図書館蔵小林文庫本『百因縁集』上巻翻刻

追塩千尋
北海道説話文学研究会

名古屋大学附属図書館蔵小林文庫本『百因縁集』翻刻について

■書誌

所蔵者・文庫番号　37。
請求記号　388.1／H　一冊　写本。
書名　目録題「百因縁集」。
写本　大本　（推定）存欠か。上巻のみが存す。
表紙　水色表紙（改装）。
　現状は、水色染紙に反古紙で裏打ちし、さらに反古紙を裏返しにした紙を貼り付けて表紙としている。本文の紙とは異なるため、後補と思われる。
装丁　袋綴　五つ目綴じ。
丁数　五十丁　半丁十行二十字。
　（文字列の縦横が揃っているので方眼紙のような下敷きを利用したものか）。
　各丁、左下部の喉近くに丁付あり。喉の綴じ目に隠れることが多い。
　目録丁に「初丁」・「三」～「四十九」・「五十」。本文と同筆か。
用紙　楮紙。
寸法　縦二八・〇、横一九・四（cm）。
奥書　五十丁末尾に巻末書写識語「寛永第十癸酉四月四日　宮谷談所　書之耳」。

（一）

上総国大網村の日蓮宗本国寺宮谷（みやざく）談所に於ける書写本と考えられる。

印記　一丁（目録）喉下部に「本通寺什物」（朱長方印）墨滅（裏から判読可能）されている。旧蔵者の印記を消去したものと思われる。四行目上欄端に「文・文学」（横書）紫印、同、四・五・六行の上部目録に重ねて「名古屋大學圖書印」（篆書）朱角印、同、中央に「名古屋大学図書館・和書」横長楕円朱印と内分中央に算用数字「286178」黒印あり。

五十丁左端喉部に受入のNo17・黒印・昭和拾五年六月□日□□・青印あり

虫損　各丁に虫損はあるが、現状では裏から紙を充てて補修されている。

備考

○所蔵者整理印として一丁一行目上欄に「388.1　H」（鉛筆書き）。

○本文のところどころに異本注記が見られる。異本注記は同筆か。詳細は別に記す。

○上部欄外に表題や出典その他を記した部分がみられる。

○裏表紙と見返しの間に挿入紙片あり、「17-8-29」「¥2－」「琳楼閣」などの黒インクペン書き文字あり。本書にかかわるものかは未詳。

○上欄の章段数字の右横、または章段名の上に色紙を貼り付けたものが四例ある。

十三丁裏・赤、三十一丁裏・水色、三十八丁裏・紺、四十三丁表・同

（文責：林）

■異本注記について

小林文庫本は現存唯一の伝本であるが、この異本注記によって、嘗て小林文庫本以外の異本（一種か）が存在したことがわかる。以下にその様態・特徴を挙げてみる。

1　「～イ」の形の異本注記はすべて三十七個。

2　目次のみで本文のない「十七　長者家人物負事」に

関しては、特に異本注記はない。

3　二十丁表まではわずか三個しかない。四十一丁裏から四十六丁表まで、七丁の間異本注記がない。それ以外は平均して一丁あたり一つ以上の異本注記がある。

4　書写者の本文に関する見解を示すと思われる「〜歟」は二十三個あるが、それらはすべて3の異本注記空白の部分に集中している。

5　「〜イ」でも「〜歟」でもなくて、本文に関する見解を示す例は三十三丁裏五行目の「買」に注して「置」、同丁8行目「苦」に注して「昔」の例があり、どちらも注記の方に合理性がある。なお、「〜イ」「〜歟」及びこの二例はすべて本文と同筆と思われる。

6　「〜イ」の形でありながら、本文と同字を注記しているのが二十四丁裏三行目、三十三丁表七行目、三十八丁表八行目、五十丁裏六行目、本文の異体字を注記しているのが三十丁裏四行目、四十六丁裏八行目である。

7　6以外では、異本注記はすべて本文の文意不通・不審の箇所に付されるが、小林文庫本の方により合理性が認められるのは、四十一丁表十行目の一例しか存在しない。この一例に関しては次の8でまた触れる。

8　『今昔物語集』（以下、『今昔』）と関係の深い説話に付された異本注記はすべて十六個あるが、三十三丁表七行目は本文と同字を注記したものであり、三十丁裏四行目は6に指摘したように異体字を記しただけである。その他十四個の詳細は以下の通りとなっている（『今昔』の本文は新日本古典文学大系本に依る）。

A　十一丁表十行目（九話）「自天曇陀曼殊等四種花雨」の「曇」に「曼イ」○
今昔一・十三「曼荼羅花・摩訶曼荼羅花等ノ四種ノ花雨リ」同源関係

B　十五丁裏五行目（十二話）「大在見此女」の「在」に「王イ」○

（三）

今昔三・十六「大王ハ此ヲ迎テ見給フニ」同源関係

C　二十丁裏九行目(二十二話)「時迦葉延行至其国」の「葉」に「旃イ」○
今昔三・二十六「迦旃延、仏ノ勅ニ依テ其ノ国ニ行至テ」同源関係

D　二十丁裏十行目(二十二話)「切悪樹本抜々枯」の「抜」に「枝イ」○
今昔三・二十六「悪キ樹ハ本ヲ切ツレバ、枝葉ハ不指ズ」同源関係

E　二十一丁表八行目(二十二話)「此徳献能食物能乎問給」の「徳」に「仙イ」
今昔三・二十六「此レニ先ヅ美食ヲ備テ～美也ヤト問フニ」同源関係

F　二十六丁裏三行目(二十八話)「此女能耆自釜出自食肉」の「耆」に「着イ」
今昔一・二十六「能ク煮エテ、釜ヨリ出テ自ガ完村ヲ食テ」同源関係

『私聚百因縁集』巻二の一「因果長者事」にも「女能煮自身、後釜出喰自肉村」とあり、小林文庫本・異本供に誤写と考えられる。

G　二十七丁表七行目(二十八話)「親諸法无常證阿羅漢果」の「親」に「観イ」○
今昔一・二十六「諸法ノ無常ヲ観ジテ、忽ニ果ヲ証シテ羅漢ト成ニケリ」同源関係

H　三十二丁表六行目(三十四話)「而今令聞仏法給」の「今」に「吾イ」○
今昔五・十六「我レニ仏法ヲ令聞ヨ」同源関係

I　三十四丁表一行目(三十六話)「便者答云」の「便」に「使イ」○
今昔二・十六「使答テ云ク」同源関係

J　三十五丁表三行目(三十七話)「此人先生々食家下賤也」の「食」に「貧イ」○
今昔二・二十二「此ノ人ハ前生ニ貧シキ家ニ生レテ、下賤ノ人ト有リキ」同源関係

K　三十七丁表三行目(三十八話)「若仏若坐吾示先世果報」の二つ目の「若」に「御イ」
今昔三・十五「若シ仏ノ来給ヘルカ。然ラバ我ガ

前世ノ果報ヲ説給へ」同源関係

L　四十一丁表十行目（四十五話）「賜褒美也」の「美」に「裳イ」

今昔四・二十「賞ヲ可給シ」同源関係

M　四十九丁表四行目（五十五話）「但呑一提猶已酔臥」の「猶」に「酒イ」○

今昔五・三「痛ク酔フ酒ヲ多ク令飲メテ」異伝関係

N　四十九丁表六行目（五十五話）「極奏麗厳好」の「奏」に「美イ」

今昔五・三「玉ノ女共、髪ヲ上ゲ、玉ノ装束テ居並テ」異伝関係

A～Nの末尾に記した「同源関係」「異伝関係」は今野達氏「出典考証」（『今昔物語集』一　新日本古典文学大系三十三）に依る。○印は『今昔』の本文に近い方に付した。十四個中九個は異本注記が『今昔』に近く、小林文庫本の方が『今昔』に近いという例は存在しない。7で述べた合理性に関しては唯一Lの例が、異本注記を小林文庫本が上回る。異本にいう「褒裳」なる熟語は見いだせないし、「裳」では文脈に合わない。しかし、『今昔』の本文は「賞ヲ可給シ」とあり、異本注記の「裳」が「賞」の誤記であるとするならば、異本注記の方が『今昔』にやや近いということになる。

3、4から異本が有欠本と考えると一応の理屈は通るが、想像の域を出るものではない。合理性という点で小林文庫本を上回る異本が嘗て存在し、それは『今昔』と関係のある説話に関して言うと、より『今昔』に近い本文を持つものであった。最後に、注記者の方針について言及すると、Lはたった一例ではあるが、意味を持つものと言えよう。注記者は小林文庫本の文意不通・不審の箇所を修正する場合に限って異本注記をしたのではなく、本文の違いを網羅的に注記しようとしていたと考えたい。

（文責：細田）

（五）

■解　説

本稿は名古屋大学附属図書館蔵小林文庫本『百因縁集』[1]（以下、煩を避け「小林本『百因縁集』」と表記）の本文翻刻である。今回は「本文編」として本文の翻刻のみを掲載し、後日、改めて「訓読編」を掲載する予定である。

小林本『百因縁集』は、先に中根千絵氏が『今昔物語集』と類話関係にある説話を翻刻されている。[2]また、同氏は論考「名古屋大学蔵本『百因縁集』の成立圏」[3]において、『今昔物語集』と本書との類話関係に一部修正を加えつつ、本書の伝来について考察されているので参照されたい。

本書の題名である『因縁集』は、説教僧が大部の書物から説教用の抜き書きを行い、手控えとして作成した写本の総称とされる。[4]近い時代の史料が残存しやすい事情はあるが、江戸期に作成された『因縁集』が多く現存している。[5]一方、本書は奥書に寛永十年（一六三三）に宮谷談所（本国寺宮谷檀林。現、大網白浜市）での書写とあり、その書写年から考えれば、江戸期に『因縁集』が作成される以前の資料となり、現存している『因縁集』の中では古い資料であると言えよう。

本書が筆写された宮谷檀林は日蓮宗勝劣派の檀林であり、原始天台の研究が中心であったとされる。[6]一方、小林本『百因縁集』は序文と跋文に『林間録』を引用しているが、『林間録』は北宋の禅僧覚範慧洪の談話を弟子が筆録した禅籍である。日蓮宗勝劣派である宮谷檀林に禅籍の影響が見られる本書が存在したことについて、中根氏は小林本『百因縁集』は元々禅宗寺院で成立した書籍で、それが説教の元本として関東に流布したのであろうと推測されている。[7]

（文責：竹ヶ原）

■出典・類話

現時点で小林本『百因縁集』の直接の典拠であると考えられる資料は確認できていない。先に中根氏が指摘されたように、全体のおおよそ半分の説話で『今昔物語集』に収録された説話との関係性が認められる。[8]しかし、小林本『百因縁集』の本文と『今昔物語集』の本文との間には異同が多く、直接の参看関係にあるとは考え難い。

また、『今昔物語集』に収録された説話との関係性が指摘されている『三宝感応要略録』[9]・『経律異相』・『法苑珠林』といった仏書に収録された説話とも必ずしも近い本文にあるとも言い難く、おそらく、こうした仏書から何段階かの継承を経て本文が変化し、小林本『百因縁集』の原本に採録されたのであろう。以下、小林本『百因縁集』所収の説話と他の仏書に所収された関係説話とを比較してみたい。

小林本『百因縁集』の第二十七話「繪師以金修善事」は、『大品般若経』の注釈書である『大智度論』巻第十六第十一、および中国唐代の仏書『法苑珠林』の巻第二十一に関係説話が見える。『大智度論』と『法苑珠林』との間には数文字の相違が確認できるのみであるため、以下では『大智度論』の該当部分のみを引用する。なお、『大智度論』の本文は大正新脩大蔵経を使用した。小林本『百因縁集』の引用本文には、私に句点と傍線とを施した。句点は現時点の暫定的なものである。『大智度論』『百因縁集』双方ともに字体は現在通用の字体に改めた。

『大智度論』巻第十六第十一

譬如大月氏弗迦羅城中有一画師。名千那。到東方多刹陀羅国。客画十二年得三十両金。持還本国於弗迦羅城中。聞打鼓作大会声。往見衆僧。信心清浄即問維那。此衆中幾許物。得作一日食。維那答曰。三十両金足得一日食。即以所有三十両金付維那。為我作一日食。我明日当来。空手而帰。其婦問曰。十二年作得何等物。答言。我得三十両金。即問三十両金今在何所。答言。已在福田中種。婦言。何等福田。答言施与衆僧。婦便縛其夫送官治罪断事。

小林本『百因縁集』第二十七話

昔有一人絵師。得請行伽陽城。有妻子有二人。是置於家行去。妻子一年侍之不見。二年侍不来。十二年云得金卅両還来於途中。修善根所至道心俄発。問一人僧云。此寺以何等重物修善問。僧云。金有三十両修云ヘリ。此絵師取出金。献仏供養僧。空手還本宅。時[25オ]妻悦云。何物持来速子共食ヨト云。男答云。金三十両有生々生々世々不失納蔵云ヘリ。妻云。蔵何在蔵云。男云還ツル路貴仏僧御坐。已奉供養。其実不失蔵云。時妻腹立云。冬夜糸寒汝今

大官問。以何事故。婦言我夫狂痴。十二年客作得三十両金。不憐愍婦児尽以与他人。依如官制輒縛送来。大官問其夫。汝何以不供給婦児。乃以与他。答言。我先世不行功徳。今世貧窮受諸辛苦。今世遭遇福田。若不種福後世復貧。貧貧相続無得脱時。我今欲頓捨貧窮。以是故尽以金施衆僧。大官是優婆塞信仏清浄。聞是語已讃言。是為甚難。勤苦得此少物尽以施僧。汝是善人。即脱身瓔珞及所乗馬并一聚落以施貧人。而語之言。汝始施衆僧。衆僧未食是為穀子未種。牙已得生。大果方在後身以是故言。難来思。夏日温苦吾男今来見侍。然経十二年来此如得王。闇如得燃思。已汝何州両金十五両作善根。残十五両不持来乎。其故為養子共。多借人物置也。吾男来速返約束。汝来極无情无益也云闘諍。抑汝訴官申令処獄云。妻訴検非違使処尤道理也云。又男何問其亦件供養之由陳申。又是道理也。乍二人極哀也云。男令得乗馬女懸[25ウ]无価宝珠脱衣令得。又国王聞食此事。垂哀譲国位給云ヘリ。是則修善根。諸天加護有加様果報得也。

得之物尽用布施其福最多。……

（八）

『大智度論』所収の説話と小林本『百因縁集』との間とでは、絵師（『大智度論』では「畫師」）が十二年の作業の対価として三十両を得たが、僧に全額を喜捨して帰国したために妻と対立した旨の大筋は同一である。小林本『百因縁集』では絵師の名前や絵師の帰国途中での僧との会話が省略された一方、傍線部で示したように、絵師の妻視点での文章が追加されている。『大智度論』では裁判の結果、馬や瓔珞が与えられたのは絵師だけである。また、小林本『百因縁集』では僧や寺への喜捨を「納蔵」と称しているが、『大智度論』では「在福田」と表記しているように、語句の言い換えも存在している。

小林本『百因縁集』の第四十三話「波羅奈国貧女事」は、『大涅槃経』巻第二十二所収の説話を大幅に改変した上で収録されている。以下に引用する。『大涅槃経』の本文は大正新脩大蔵経を使用した。小林本『百因縁集』の句点・傍線は先の引用と同様、仮に施したものである。また、一部の文字は原本の補入記号に従い移動させた。

先の引用と同様、双方とも字体は現在通用の字体に改めた。

『大涅槃経』巻第二十二

仏言。我念過去無量無辺那由他劫。此娑婆世界有仏出世。号釈迦牟尼。為衆生宣説大涅槃経。我於爾時従善友所。転聞仏説大涅槃経。心中歓喜。即欲供養貧無財物。遂行売身福薄不售。即欲還家。路見一人而復語言。吾欲売身。君能買不。其人答言。我家作業人無堪者。吾有悪病良医処薬。応当日服人肉三両。卿若能以身肉三両日日見給。便当与汝金銭五枚。我時聞已歓喜語言。恵我七日須我事訖便還相就。其人答言。聴汝一日。我即取銭往至仏所。礼已奉献。然後誠心聴受是経。我時闇鈍唯受一偈。

如来証涅槃　永断於生死
若有至心聴　常得無量楽

受是偈已至病人家。雖復日日与肉三両。以念偈故不以為痛。日日不廃足満一月。其人病差瘡亦平復。我時見身具足平復。即発菩提願求来世成仏之時亦願号字釈迦牟尼。以是因縁今得成仏。

小林本『百因縁集』第四十三話

昔波羅奈国有一人貧女。色形見悪事如鬼神。女思。吾先世不修善根。今世形悪又貪窮身也。今世又不修善根。後世亦後如是。吾何修善思。更无術。所詮売吾身。奉供養仏陀（僧イ）思定行歩。更无買人。爰有一貧家。買云売身奥地者買云出。々女已奉売云。亦家主問云。買汝身。兎角センニ汝云何云ヘリ。女答云。只奉売身。可任御意答。抑我身有病。年久而食人温肉可愈云云。抑買汝。其身剥皮截肉欲吸血也。女答云。兎角御意次第也云時。銭三文買女。取銭云。三日間免暇給乞。已免（39ウ）此女。登山寺奉仏僧遂供養。一人僧誦経（文イ）。女聞此偈。還主家。洗清身至主前。臥時病人起挙。即取釵割切其身。而先問女云。抑汝日来成何事云ヘリ。女答云。吾前生心拙不修善根。今生貧女。今世不修善。生々世々又如此。仍銭三文身交易。奉供養仏僧也答。病人云。抑仏者何様者。答云。仏申具三十二相八十種好給見者。歓喜无厭。徳備難化能化住願。一切衆生垂一子慈悲人也云云。病人

（九）

云。然何故事歟言フト問。女答云。仏説甚深无量法門給云。病人云。而汝持其文歟。語吾令聞云ヘリ。時女以偈令聞云。如来証涅槃。永断於生死。若有至心聴。常得无量楽文。女説此文。病人忽病愈。女人トモ々々断无明之惑。証初果入仏道云ヘリ。

『大涅槃経』と小林本『百因縁集』との間とでは、自らの身を売って得た銭で仏を供養したこと、『大涅槃経』の偈（傍線部）が本文に引用されている点が共通する程度で、実際に自分の身を病人に与えたか否か、更に言えば主人公が釈迦か否かも異なる。

この『大涅槃経』所収の説話は、『経律異相』『法苑珠林』『正法眼蔵』等で引用が確認できる。先に寺院や僧侶がそれぞれの『因縁集』を所有していたことを述べた。

（一〇）

本書についても、何時・誰がこうした作業を行ったのかは不明であるが、各種仏書から採録した説話を、説教の場で用いるために改編し、小林本『百因縁集』の元となった仏書に収録したのであろう。

先に引用した第二十七話「繪師以金修善事」とも共通する要素として、関係説話よりも「妻」の視点からの文章を加える、主人公を「貧女」に変更するといった女性を強調する改変がみられる。この二話における本文の改編は、女性の聴衆を意識して行った可能性が考えられよう。この点については、小林本『百因縁集』所収の他の説話の改編と比較した上で、改めて別稿にて検討したい。

本文の典拠・類話については現在も検討中であるため、後日別稿にて報告する予定であるが、本稿では名古屋大学図書館ホームページ内で共通する説話が存在するとの指摘がある『今昔物語集』『三国伝記』『私聚百因縁集』と、現時点までの検討作業の中で関連性が認められた『経律異相』『法苑珠林』に対象を限定し、小林本『百因縁集』と関係すると考えられる説話の一覧表を掲載する。

（文責：竹ヶ原）

表1　小林本『百因縁集』関係説話一覧

話数	目次題	割注	鼇頭	本文題	『今昔物語集』	『三国伝記』	『私聚百因縁集』	『経律異相』	『法苑珠林』
一	国王求大法事	付提婆品	求法	大荘厳論云	5—10	1—4			
二	一人罪人免地獄	付地蔵	誦文						
三	五人后事	付聞法	聞法	五百人后事	3—25	5—2			
四	鳩尸那国抜提河事	付闇王	見仏	鳩尸那国抜提河事	3—27	4—1		29—7	21
五	天竺道行事	不修善根悔事	聞法	天竺同行事	4—13	10—22			
六	迦毘羅城無佛法事	付釈迦	唱仏名	迦毘羅城无佛法事	1—14	8—10			
七	舎衛国五百盗人事	五百羅漢也	唱佛名	五百人盗人事	1—38		4—16		
八	深山僧誦経事		誦経	深山一人僧誦経事	5—13			5—14	
九	満財長者事	付釈迦教化	拝仏	満財長者事	1—13		2—6	47	55
十	目連尊者弟事	修善可生天事		目連尊者事	3—24		2—5	14—13	56
十一	迦毘羅国率都婆事	付釈迦因位		迦頻羅国率都婆事	2—4	3—10	1—14	31—3	
十二	魔訶陀国貧女老母事	成王后事		摩訶陀国貧女事	3—16	10—3	3—5（2—8）	28—6	
十三	僧念阿弥陀仏事	子教母孝事		念阿弥陀佛事		4—12			
十四	舎衛国俗家仏宿事	知因果		舎衛国俗人家事	2—5				
十五	伯耆大山事	知因果事		伯耆大山事					
十六	俗被教妻射母事	付不孝事		俗被教妻射母事	20—33				22—13
十七	長者家人物員事	本文欠							
十八	人打犬令哭事	知因果事		犬打事	3—20				
十九	舎衛国橋梵事			舎衛国橋梵事	4—23				
廿	閻魔王宮僧尋同法僧事			閻魔王宮僧同法詣事					
廿一	天和事	負物不反作馬事十三才		天和母事					
廿二	迦旃延事	教化女人弘仏法		迦旃延事	3—26				
廿三	山寺百人僧事	修行成羅漢		山寺百人僧事					
廿四	寺曳材木牛事	借物仏不返事		寺材木曳牛事					
廿五	俗人母負物徴事	付不孝		俗人母負物徴事					
廿六	太子抜眼事	付提婆品釈迦事	釈尊大悲之事	太子抜眼事					
廿七	絵師以金修善事	作国王事		絵師金以卅両修善事					
廿八	百廿歳僧事	付羅漢		百廿歳僧事	1—26		2—1	35—4	21
廿九	和頼多事	付出家修道		和頼多事	1—25			18—3	
卅	恒河側貧女事	付出家天人事		恒河側貧女事					

※表中の数字は「巻数—話数」を示す。特定できなかったものは括弧書きで付した。
※『今昔物語集』は新日本古典文学大系本、『三国伝記』は池上洵一校注本、『私聚百因縁集』は古典文庫本を使用した。
※『経律異相』『法苑珠林』の巻数・話数は『大正新脩大蔵経』本による。

（一一）

話数	目次題	割注	鼇頭	本文題	『今昔物語集』	『三国伝記』	『私聚百因縁集』	『経律異相』	『法苑珠林』
卅一	五百人王子事	付五百羅漢		五百王子事	5—12				
卅二	内裏火災事	付離欲		内裏火災事	5—15				
卅三	西国俗人事	付観音		西国俗人事					
卅四	国王菓子事	付仏法望		国王菓子事	5—16				
卅五	舎衛国勝義女事	付慈悲		舎衛国勝義女事	1—32				
卅六	山里俗人事	付妻事出身□		深山里俗人事	2—16				
卅七	人天蓋事	笠恵事		人天蓋事	2—22	11—19			37
卅八	摩訶陀国五百人王子事	付不浄油事		摩竭陀国大王五百人子事	3—15				
卅九	大臣之子事	付正直盗人		大臣子事					
四十	玄遥紫丹二人后事	付仏法		玄遙紫丹事					
四十一	以千両金買一行文事			以千両金買一行文事					
四十二	鷹放鶉事	付不知恩者		鷹放鶉事					
四十三	波羅奈国貧女事	売身供仏僧事		波羅奈国貧女事					17
四十四	屈太以慈悲破地獄			屈太事	1—18	8—13			22
四十五	田舎僧妻事	付二帰事		田舎僧妻事	4—20	8—27		37—2	
四十六	法性寺住僧事	借仏物不返事		法性寺住僧事					
四十七	波羅奈国被抜眼事	付法花経		波羅奈国女抜眼事	4—22				
四十八	俗人国王被免頸	信仏法現神反		俗人国王被免頸事	4—21			37—3	
四十九	越前国猿経書事			越前国猿経書事	14—6				
五十	貧女仕地蔵菩薩事			貧女地蔵菩薩仕事					
五十一	貧女仕吉祥天事			貧女吉祥天女仕事					
五十二	誦経延命事	付釈迦弥勒		誦経延命事					
五十三	南天竺五百人鈎人事	付五百羅漢		南天竺五百人鈎人事					
五十四	鳩睒弥国持経者事	助母事		鳩睒弥持経者事		4—19			
五十五	天竺賢直事			天竺賢直事	5—3			44—3	
五十六	猟師取雁事	付五百羅漢		猟師取鴈事					
序文									
跋文									

※序文・跋文は『林間録』が出典である。
※判読不能の字は「□」とした。
※漢字は現行の字体に改めた。

■凡　例

1、『百因縁集』の底本は名古屋大学附属図書館蔵（小林文庫）本とする。同書については同館のホームページ（http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/cgi-bin/wakan/wa.cgi?i=k37。二〇一九年十二月確認）にてＰＤＦファイルが公開されている。また、今回の翻刻はクリエイティブ・コモンズ「表示―継承」のライセンス下で利用が可能であるが、追加条件が適用される場合がある。詳細については名古屋大学附属図書館のホームページ内の「データベースの利用について」を参照されたい。

2、本文に付されている訓点は省略し、本文のみの翻刻とした。訓点などは今後予定されている「訓読編」に反映される予定である。

3、改行、一行あたりの文字数は底本のまま（一行二十字、一頁十行）とする。また、一字分の枠を用いての「云ヘリ」「云云」表記は、底本の様態に近づけるため、字を縮小した。

4、本文で使用されている文字は異体字・俗字は現在通用の字体に改め、その他は可能な限り底本の表記に近い字体とした。そのため、行中で旧字体・新字体が混交することがある。また、こうした方針で翻刻を行った結果、そのままでは文意をとれない文が存在するが、後日の「訓読編」では文意がとれるように修正を行う予定である。

5、踊り字は「々」に統一した。

6、ミセケチや頭注・脚注・傍注はそのまま表記した。また、補入を意味すると思われる記号「〇」（左記の事例参照）も底本のままに入力した。補入記号には挿入線が引かれたものも存在するが省略した。

補入記号の例（三話より）

補入記号の例（二十話より）

7、判読不能な字、あるいは疑義のある字については注を付し、残画から文字が類推できた場合は四角囲いで

（一三）

（一四）

文字を表記し、判読不可能な場合は「□」とした。注は翻刻本文の後に一括して底本の画像付きで記した。

8、異体字「幷」は凡例4に従い「菩薩」としたが、一行あたりの文字数を再現する意図から、「菩薩(幷)」と亀甲括弧を施し括弧内に付記した。その他、翻刻者が付け加えた字句は亀甲括弧内に記入した（例：三十八話の話数表記）。

9、翻刻の便宜上、一話ごとに空白行を一行挿入した。

10、「今／令」「已／己」といった文字は、書写者による明確な区別がなされておらず、適宜判断した。

11、注15・注24のようにフォントが存在していない一部の字には注を付け、別な文字を使用した。

（付記）今回の翻刻に際しては、一部、北海道教育大学釧路校准教授である石井行雄氏のご教示をいただいた。特に記して御礼申し上げる。

（文責：竹ヶ原）

翻刻担当

追塩千尋	4・5・6・20・21・36・37・50・51
鈴木英之	34・35・48・49
髙谷和明	55
竹ヶ原康弘	目次・序文・12・13・27・28・43・44・56・跋文
新田沙織	15・29・30
野本東生	1・2・3・14・16・18・19・31・32・33・45
林晃平	9・22・23・38・46・47
細田季男	7・8・24・25・39・40・53・54
米山孝子	10・11・26・41・42・52

（五十音順）

名古屋大学附属図書館蔵小林文庫本『百因縁集』上巻　翻刻本文

[10]六百因縁集上巻并目縁[11]

一　国王求大法事付提婆品
三　五人后事付聞法
五　天竺道行事不修善根悔事
七　舎衛国五百盗人事五百羅漢也
九　滿戝長者事付尺迦教化
十一　迦毘羅国率都婆事付尺迦因位
十三　僧念阿旅陁仏事子教母孝事
十五　伯耆大山事知因果事
十七　長者家人物負事
十九　舎衛国憍梵事
廿一　天和事負物不反作馬事十三才
廿三　山寺百人僧事修行成羅漢
廿五　俗人母負物微事付不孝
廿七　繪師以金修善事作国王事
廿九　和頼多事付出家修道
卅一　五百人王子事付五百羅漢

本通寺什物[12]

二　一人罪人免地獄付地蔵
四　鳩尸那国拔提河事付闍王
六　迦毘羅城無佛法事付尺迦
八　深山僧誦經事付蚺猿狐兎
十　目連尊者弟事修善可生天事
十二　魔訶陁国貧女老母事成王后事
十四　舎衛国俗家仏宿事知因果
十六　俗被教妻射母事付不孝事
十八　人打犬令哭事知因果事　」一丁表
廿　閻魔王宮僧尋同法僧事
廿二　迦旃延事教化女人弘仏法
廿四　寺曳材木牛事借物仏不返事
廿六　太子拔眼事付提婆品尺[13]迦事
廿八　百廿歳僧事付羅漢
卅　恒河側貧女事付出家天人事
卅二　内裏火災事付離欲

卅三　西国俗人事付観音
卅五　舎衛国勝義女事付慈悲
卅七　人天蓋事笠恵事
卅九　大臣之子事付正直盗人
四十一　以千兩金買一行文事
四十三　波羅奈国貧女事賣身供仏僧事
四十五　舎僧妻事付二帰事
四十七　波羅奈国被拔眼事付法花経
四十九　越前国猿経書事
五十一　貧女仕吉祥天事
五十三　南天竺五百人鉤人事付五百羅漢
五十五　天竺賢直事

〔空白頁〕

└二丁裏

（一六）

卅四　国王菓子事付仏法望
卅六　山里俗人事付妻事出身□[14]
卅八　摩訶陀国五百人王子事付不浄油事
四十　玄遥紫丹二人后事付仏法

└一丁裏

四十二　鷹放鵠事付不知恩者
四十四　屈太以慈悲破地獄
四十六　法性寺住僧事借仏物不返事
四十八　俗人国王被免頚事信仏法現神反
五十　貧女仕地蔵菩薩事
五十二　誦経延命事付尺迦旅勒
五十四　鳩睒弥国持経者事助母事
五十六　獵師取鳶事付五百羅漢

└二丁表

居位高人遂催无常風隠形貴女定趣黄泉道生者
必滅之理何物非帰无常仍以聴聞之功成後世之
因記孝養之文結菩薩之縁耳（廿）
林間録云衛嶽楚雲上人生唐末有至行嘗刺血寫
妙法蓮花経一部長七寸廣四寸而厚半之作栴檀
匣蔵於福厳三生蔵又刻八字於其上曰若開此経
誓同慈氏皇祐間有貴人遊山見之疑其妄使人以
鉗發之有血如綫出焉須臾風雷振山谷煙雲入屋
相掟不相見旂日不止貴人大驚投誡懺悔嗟乎願
力所持乃尓異　予嘗経游往頂戴之細看血綫依
然貫休有詩贈之　剔皮刺血誡何苦為寫霊山九
會文十指瀝乾終七軸後來求法更无君

（三丁表）

（三丁裏）

求法

大荘厳論云

一　昔有国王為求法故修行山林有一仙人出来云吾
持大乗法門奉教汝可随吾云事大王答云若有聞
法可砕身命言仙人云九十日之間一日五十度以
針槌身吾貴教法門云大王云只一日千度槌給為
法不惜命言身枉立給時仙人以五十針一日五十
度參打之三日云問云若汝有痛耶　答云无痛九
十日之間如此何云大王云堕地獄洞燃猛火被焼
身日痛云准彼此苦百万倍不及其一言九十日之
間能忍給後得八字法門所謂諸悪莫作諸善奉行
云八字文也尓時国王者今釈迦佛是也尓時仙人
者令提婆達多是也

（四丁表）

誦文

一　同論云一人罪人獄卒被追行途中僧出来問罪人
云汝在処所習有法門乎若有覚誦令聞獄卒罪人
云在処時无聞習事仍无可誦文答僧云猶不慮外
一句有聞事乎思出言更不覚云獄卒○迅追令堕在
（旅）
无間地獄此僧猶悲罪人往至地獄云哀哉悲哉
吾地蔵菩薩也吾教文誦遁罪教云若人欲了知三
世一切佛應當如是観心造諸如来教玉ヘリ罪人聞此
文誦地蔵猛火忽変成清涼池落処无数億罪人離
（獄鰲）
苦證羅漢果云ヘリ

（四丁裏）

（一七）

聞法

三　五百人后事

昔有国王具五百人后王ヘリ下宣旨云吾○内后及采宮○女等不可趣三宝道若有背宣旨族以刀兵可殺云云仍一人趣仏法道者无一人経数歳然有最愛后一人吾被寵愛帝王若不聞仏法名字後世必堕三悪道无出離期王者必无不滅吾五百人中其最寵愛人也然死必堕无間獄殺害急有不思死事利遅差別也死成土身也同參仏所聞法死思詣佛所先逢僧説法奉聴聞云云僧云汝王宮人為仏法有宣旨聞」五丁表更不可教設後有教汝命甚為何后云我違国王法為聞仏法出来也吾聞法還王宮死事尤理也生者必滅盛者必衰習也吾雖蒙王寵愛不可保万歳着須臾楽還三途古郷无益只教貴法門云時僧為后説三帰法門后聞云佛所説法猶有之乎僧又説十二因縁法四諦縁生法門令聞后云吾遇師奉見容此度許也自欲還王宮雖然奉遇仏法僧永離三悪道悪苦殖淨刹之因願依此善根後生成仏利益一切衆生發願礼僧還王宮書上帳入内国王儲弓失射后三失也其失一登空一失迦后三度在前一失」五丁裏

（一八）

還王前成猛火然大王驚云汝非人天龍夜叉乾闥婆云ヘリ后答云吾非乾闥婆非人非人非人詣仏所聞法門依其善根力金剛蜜迹守護吾云時大王投捨弓箭宣旨下天下給始従吾宮内至于天下人民可信仰仏法若有背宣旨輩取可斬首云云

見仏

四　鳩尸那国拔提河事

鳩尸那国拔提河邊沙羅林中佛説大涅槃之教法尒時耆婆大臣教阿闍世王云闍王已造逆罪給定堕地獄彼鳩尸那城拔提河辺沙羅林中仏御座説常住仏性教法利益一切衆生參給先懺悔罪給申」六丁表時阿闍世王云吾既殺父仏更能思食事更不可有亦見我不可言云ヘリ耆婆大王臣云佛修善根哀也見給又作悪哀也見給為一切衆生垂平等一子悲人也只參給申時阿闍世王云吾作逆罪決定堕无間地獄設奉見佛事不定也年已老今更吾佛辱思無益也云云大臣云此度奉見仏殺父不滅罪必堕无間獄不可有出離期仏更悪不思只參給懃進尒時佛放光照阿闍世王身時阿闍王云劫訖時月日一二三世

出可照聞若劫訖日光照吾身云ヘリ耆婆大臣云大王
聞喩人子数多有々所痛父母此懃養育大王既殺父
罪重譬人子非重病耶佛一子悲御座故為利益大 ⌊六丁裏
王従沙羅林指給佛光カシト申時阿闍世王老有意見
付参汝具吾々作逆罪行路間地破堕入地獄若有
左様象捕汝云云阿闍世王詣仏所出立車五百兩皆
懸幢幡宝蓋大象五百頭負皆七宝其所従幾乎到
沙羅林参佛御前礼仏取證蒙受記佛言吾若不成
仏汝吾又不可成仏今汝来吾所已入佛道云云殺父
阿闍世王奉見佛断逆罪及三界惑證果況非逆罪
人乎見佛功徳如斯

聞法

五　天竺道行事

天竺人行道必具僧守護故昔有一俗人為交易物 ⌊七丁表
乗船浮海悪風俄吹波底船巻入時梶取見船下有
一俗人問云汝何人俗人答云吾龍王也汝船巻入
思也云ヘリ梶取云有何故汝我等急殺云乎龍王云汝
具僧在吾家人也朝夕受吾供養過数歳然呵貴吾（責歟）
不教不修善根造罪今既堕蛇道一日三度以釼令
切身事偏此僧咎也其妬[15]依無情殺思也云云時梶取
云汝受蛇身預三熱苦連目蒙刀釼悲是則前生旧
業也愚癡亦重殺人云ヘカ定得其果報竜王云吾受苦
不知前後又不教吾令作罪極无情殺思也云龍王 ⌊七丁裏
聞心経離蛇身生天上云ヘリ

六

唱仏名　迦毘羅城无佛法事

昔伽毘羅城无仏法皆堕（随）逐外道習書籍佛為教化
彼等衆生入其城給時佐摩耶外道教城内人云汝
等城瞿曇沙弥云者可来極不用之法師也物持人
造功徳云无益失物成貧窮相思夫婦中急世无常
也修行仏法願棄云去又年若清気見女人世无墓
者也成尼願後生云令剃頭斯令无益事欺人令取
損去人中衰人形大不用法師云城中人云サテ其法
師何スヘキ云外道云其法師只清流河澄池側居木○ ⌊八丁表
影者也然其池河入屎尿糞穢木切失各家戸立防
居猶入来儲弓箭射殺教時城内人随外道教失江
河儲弓箭刀林（杖歟）尒時佛到彼城言汝等不聞我教遂
堕三悪道極哀也言池河成清浄蓮花開又樹栄成

（一九）

金銀瑠璃地弓箭刀杖悉反成蓮花外道見佛神力
生勧喜心供養仏五躰投地唱南無帰命頂礼釈迦
牟尼仏以額着地依其善根力皆得无生忍

唱仏名　五百人盗人事

[16] 七　昔舎衛国有五百盗人宮被禁各々被切片目片
耳氏乎氏足高禅云山麓被追捨无眼耳手足命不断」八丁裏
極物ホシ、何術ヲカセント哭吾等五百人今斯非人成物喩、
如瓦石又如破土悉現世成従物後生成従物足有
仏御前參乎有手摺眼有仏奉拜我等已俱二世成
従物何術セントテ云ヘリ時一人賢盗人云佛在世叶一切、
衆生願給也イサヤ我等五百人一度參仏御前云又
一人盗人云我等手足任心有時不仕佛若有奉仕
仏不見斯目仏神物不云誤取用其佛更我等能不
思食蒙辱又一人盗人云佛平等慈悲御座善人悪
人皆垂一子悲給誤取用仏物仏更不便可思食イサヤ
我等五人百一同唱仏御名云一同五百人挙声南
無釈迦牟尼如来高声唱仏聞其音速至高禅山之」九丁表
麓給説法給五百人盗人一度皆眼耳手足出来成
本身皆證漢果所謂霊山五百御弟子是也

誦経　深山一人僧誦経事

八　昔深山有一僧誦経居遇七日霖雨人不通仙飢死
蛇猿狐兎四獣出来云我等雖落畜生道依聞仙経
已生天无疑此仙七日不食欲死為何云各相語設
供養去蛇献一玉云舐只此玉給云猿取木菓献狐
以馬牛肉供養兎更无術不能登木取肉鳥不及万」九丁裏
無術身也云捨薪焼火當仙感或時思吾離畜生道
可生天上此仙徳也蒙恩不酬不成佛果云儲他供
養不及不如生身供養仙云踊入火爰仙云吾生々未
肉食云懐取其兎其兎者令釈迦如來也誦経仙者
當来旃勒是也

拜仏　満賊長者事

九　昔満賊長者有一男子須達長者有一女子満賊至
須達家見有女子一人端厳美麗放光居満賊長者
語須達云吾有一子合汝娘云ヘリ須達云更不可合云
満賊長者云何故不可合云須達云吾娘奉仕仏吾

更不知亦汝已随逐外道雖然令言佛云須達詣仏
所此事白佛仏言吉事也只可合吾必行滿賊家教」十丁表
化彼云ヘリ時滿賊又云若汝娘合吾子十六万八千里
路敷金又以七宝荘厳路迎之云云于時須達領掌娘
滿賊如所言十六万八千里敷金以厳路何况餘事
乎時佛召阿難勅言汝行滿賊家意見可趣善路者
歟若不趣定打追汝若尓乗神通可来云云時阿難即
受教勅將无量大衆行至滿賊家々人驚騒云爰、
昔不見悪人来若瞿曇沙弥云欲打追時滿賊ヨメ勲
制此滿賊子妻問云此和君師問云ヘリ妻云不尓是我
師御弟子阿難尊者有云ヘリ夫云此僧定和君繋念来」十丁裏
也猶打追云ヘリ時妻云哀哉和君極愚也此僧断三界
惑永離愛欲心人也暫成饗用事辞還時見云時阿
難登虚空放光現神通去爰滿賊子氏成奇異思仏
又経一兩日遣舎利弗滿賊子又妻問云和君師云
是云妻云不尓此同朋舎利弗尊者来ソト云即時又
放光現神通去次富樓那須菩提迦葉等遣御弟子
皆各々至放光現神通還滿賊并子思仏弟子神通
妙有吾外道術不劣極出目増師作法何見思時佛
放眉間白毫相光照滿賊家東西南北四維上下六
種震動自天曇陀曼殊等四種花雨栴檀沈水之香
曼イ
充滿法界現希有瑞相尓時三摩耶外道出来云汝」十一丁表
家急悪人来汝并万億人可殺未知耶云時滿財未
知外道云大地震動東西南北不安令悪事物降様
々悪相有汝年来見斯様事有已瞿曇沙弥人釈迦
牟尼仏云其法師大悪人也以毒薬速欲殺害多人
今不知之云滿賊云何故其法師吾可殺害云外道
云其娘已瞿曇沙弥妻也被取妻正能思人有云ヘリ滿
賊云サテ其何スヘキト云外道云其娘速追出云ヘリ滿賊向
子云汝妻速追出有命自従是勝妻相合云子云先
父母人子皆世常道理也已吾父母歳老死事不知
今明年又吾妻一日片〻時不見不可有世死云丘取
片歟
手共死思更不可出云云外道語滿賊云外道軍急ナランニ
和君已入手无益也自害云ヘリ滿賊云吾許有五百
剱取其第一剱來云ヘハ已取持来滿賊已取剱自害
互」十一丁裏
自心弱語云吾自害不及又取三百鉾来以剱取頸
以鉾指腹云時数多眷属出来以剱欲害滿賊時剱
前蓮花開鉾前又蓮花開尓時仏自耆闍崛山出給

（二一）

其儀式其作法魏々耳目非所及文殊乗師子王具
无量衆左方打立普賢乗六牙白象王具无量菩薩大
衆右方打立万二千声聞千二百羅漢梵王帝釈四
大天王竜神八部諸鬼神等一々其左右列各所従
幾許釈尊已至滿戝家給其家无量无数人民悉見
佛永改外道邪見帰佛道云ヘリ然仏法此外道法霜露
如値日光云云

十　目連尊者事

舎衛国目連尊者弟有大冨然不修一善目連哀之
行至弟所教訓云汝修善根得功徳云云弟答云吾父
母在家恣世云抑功徳何事問目連答曰功徳者一
一塵物施人得万物弟云サラハ吾施云開一倉施人物
又五六造倉人間曰此何料云ヘハ功徳為積也如是九
十日間戝宝施諸人問目連云汝生已後未妄語言
何故吾倉不積功徳耶云目連云捕吾袈裟端云上
四王天忉利天夜摩天兜率楽反化天他化自在天
見四十九重摩尼宝殿其内各有一人女人瑠璃女
居瑠璃床綺瑠璃糸縫瑠璃衣珊瑚女居珊瑚床綺

（廿）
普
十二丁表
問歟
十二丁裏

七宝者
正字通云
金銀琉璃
玻梨車渠
馬瑙真珠
瓔
経七宝者
金銀瑠璃
硨磲瑪瑙
真珠玫瑰

（二二）

珊瑚糸縫珊瑚衣車渠女居車渠床綺車渠糸縫車
渠衣最極内金女居金床綺金糸縫金衣一々見之
思轉輪聖王娯楽家无如斯女人忉利天喜見城内
同此无女吾国波斯匿王家同此无女人誠目出度
問女云如此目出御座何人何料糸又縫何衣給云
女人答云此娑婆世界釈迦佛御弟子目連尊者弟
修善根已可生此其料縫衣吾等其眷属一向可奉
仕者也答聞此言歓喜躍踊云吾兄誠不妄語給生
々世々縁不如善知識云返舎衛国旅修善根生第
六天受勝妙楽閻浮提以十方千六百年木千歳彼天為一日
一夜其壽命万六千歳也其壽尽終入仏道云云

十一　迦頻羅国率都婆事

昔伽頻羅国佛遊山玉ヲ陁羅樹下有率都婆仏其至
許此率都婆拜給阿難舎利弗迦葉目連等御弟子
恠之思仏何故此率都婆勲拜給乎佛人奉拜仏外
貴何物有之思奉問仏々答云昔此国大王无子乞
天祈竜神惣諸天致信心之誠于時其后懐妊有十
月生一子人歟男子其王子十余歳之時国王身有病以

七宝
十三丁表

万薬治之不愈醫師云生以来芥子許不立腹取人
眼目骨髄和合付之必除愈云時人云仏外護誰人不
立腹者有乎更世中不可有事也時太子聞此思只
吾有思白母給生者必滅會者定離昔何人免此乎
徒帰无常穢土奉助吾父御命申給母后哭云更不
可免太子云為孝養有情吾命可入不孝内云語一
人旃陀羅釵五百合取々吾眼目骨髄和合奉父王
大王得之病忽除愈給大王存命延給後吾太子何
不出来言大臣奏云太子為孝養身命奉大王給也
食其肉給病平愈申時大王悲哭云聞往昔殺父有
王未聞食子肉命生云事悲哉哀哉云喩山院陁歟羅樹
木立率都婆給其大王者吾父也此率都婆為吾立
給也依此率都婆功徳我令成等正覚教化衆生也
云云　御尺曰十八廿二

└十四丁表

十二　摩訶陀国貧女事

昔摩訶陀国有一人貧女年八十有余也有一人娘
歳十四歳也孝母无極時其国大王有行幸万人奉
見之思母問女子云明日見物汝出思乎若出吾湯
水飢云ヘリ娘答云吾更不見侍云云其日此女為母摘菜
不見大王行幸時頻婆婆羅王見此女言彼有女万
人中不見吾何故无眼歟面見辱令問給女子答云
吾眼目手足不闕大王行幸母孝可怠以此由申給云大
王留輦言世无類事云女也○召近此女問云吾許言上
金有万兩有衣着汝吾共有言女答云大王仰極悦
然貧家有母孝无暇先白母被免參許今日暇申帰
貧家先向母問云久有思給問母云少不思云時娘
大王仰如此語母悦云吾生養汝時汝成国王后心
深思其本意相叶大王御口遷仰ツラン悦願十方諸佛
垂権護吾娘大王不忘給必令迎給願其日暮暁貧
家門車卅兩立聞高人行通思猶聞此家問間入来
以七宝荘厳車乗此女已迎王宮大在王ィ見此女三千
寵愛在只此身給終歟日竜夜見給更不足誠天下政万
事任意云ヘリ

└十五丁表

十三　念阿旃陀佛事

昔有一人僧常念阿弥陀佛有妻不信者也有一男

（一三）

子取付父念佛数珠常口学母悪之制之時其子死上 十五丁裏
至閻魔王宮○問○小兒云汝見浄土七宝池思否小王
兒見申時具王此小兒令見七宝池給能々歩廻浄
土或見諸蓮花微妙不思議宣説大乗一実法門花[17]
中皆人化生又見中无人有花小兒問閻魔王何故
皆人化生中无人有花乎○答云汝不知哉是汝父王上
汝可生花也小児申何故吾母之花无王云汝母悪
業深重故可堕无間地獄无其花云云小兒申哀哉不
孝父母人子落地獄仏説給吾幻稚爰来至已不孝
子也願王許七日暇還娑婆此由語母令修善根開
四花申許七日命小児還娑婆責母令修善根修念 十六丁表
佛経七年遂四花令開云云

舎衛国俗人家事

十四 昔釈迦如来舎衛国俗人家六日宿給朝早出給天
暗雨降風吹洪水出家主俗人云今日留給風雨有
難又同奉供養申阿難舎利弗迦葉等御弟子達今
日留給申佛言汝等極愚也一度交語宿依止皆先
世因縁也家主明聞汝先生虱有時人取捨寒死ヘカリシ

（二四）

時取汝付吾身六日延命七日云朝汝已死吾宿此
六日也仍今日不可止言速帰耆闍崛山給仍一言
一宿皆是先世果報也 十六丁裏

伯耆大山事

十五 昔有一人持経者誦法花経至七巻残八巻不能誦
此由祈誓仏々示云汝先生牛也然汝主汝負物參
伯耆大山法汝歟坂本坊羈置詣神前其夜汝宿坊有持
経者誦経已七巻誦間夜已明汝主出来急取牽去
不聞八巻仍此巻不誦也故生人間先世所聞明誦
也示給ヘリ

俗被教妻射母事

十六 昔有一人俗用妻教欲殺害母深山將母欲射母時
母云汝欲射吾暫待汝可処分云脱二衣語云不穢 十七丁表
時取之一汝服之一服汝子サテ後吾射殺云抑汝吾
何射思欲射頭載汝處也欲射眼哀汝処眸也欲射
口吸汝口処也欲射胸呑乳処也欲射腹九月宿所
也欲射足為養汝求物足也更汝可射処无但脇汝

18

无思處サラハソコヲ射云懸箭射母忽大地破地底々ヱ入
母哭取髪曳髪留身落入ヌト云云

犬打事

十八

昔有人家飼一犬主捕此犬打時側人睡聞其犬啼
声吾子吾痛打々々々々々云聞眠驚家主如斯告
語已打止問犬云其実否犬答云吾汝母也汝吾子
也答子云有何故得此報給問吾先生住汝家人我
云事不聞依之訴汝一度打依其果報吾作犬汝常
打也依打吾汝生々世々亦如此可得果報也云ヘリ

十七丁裏

舎衛国橋梵事

十九

昔舎衛国有一人長者有子名橋梵大悪人也殺害
諸人民生類令嫁娶更无相叶女求国中尋隣国不
能得還父家見吾母事○无勝是女○即吾妻セント思父家、、
出入弥无内外母思親子間也有何疎事思時梵子
俄入母懐時母驚逃隠追捕遂嫁母果報拙已度々
為子被犯梵子思吾増父故万事不任心吾須殺父
盗世思即殺父父師羅漢聖者一人在家来見之欲

恣イ

十八丁表

去時梵子見此僧逃去吾所為定語遠近人思又殺
羅漢如此千乗万騎任意時伴妻窮通他界男梵子聞
此事大嗔即縛母打迫云昔吾汝子也今已吾妻也
汝争可觸他身云已打殺仍造三逆梵子往日月漸
慚愧懺悔心發吾已逆罪造此若罪有无問仏思參
祇薗精舎到已奉問仏々在鷲峰山答サラハ御弟子達
聞給吾可申事有云件三逆由次第語千百二上羅漢
等皆塞面側顔随逐斯悪人有咎更不可見聞云去
梵子大嗔恚發即千二百羅漢僧坊経論法門皆焼
之拂帰家経数日又參祇薗精舎至釈迦御前千二向
百羅漢等見梵子欲打追尓時梵子進出仏前千佛ヒ
五逆之由自始一々陳申尓時仏微笑給善哉々々
言梵子忽断諸悪悲歎證羅漢果造五逆者奉見仏懺悔
其罪立処得果况本至誠心者功徳哉

十八丁裏

閻魔王宮僧同法詣事

廿

昔有二人僧一人精進勇猛也一人懈怠无慚也雖
然受人施此僧死堕地獄一人僧為訪同法以行力
詣閻魔王宮問同法之僧所在下上閻魔王答云汝同法

僧无慚愧故堕无間地獄釜行不可見今无間地獄
釜八百九十億也争知云ヘリ僧云若有王宣旨自至申　└十九丁表
時閻魔王与宣旨僧得其文至无間地獄釜見銅湯
佛還○火熾燃其火盛也其中件同法僧出暫止苦猛上
患語云君説法利生結縁故来至此給吾无慚故落
此地獄釜願汝助吾給云何可助只法花経一部書
供養速可助云云僧問云若吾母在所知僧答云在此
釜云如教行見母従釜底出獄率以鉾指返暫乞留
母語聞陳云吾為養汝造罪落此地獄抑吾行至汝
家三度也一度成犬至物盗食犬云打頭已打殺一
度成蛇至又打遂首砕死一度成狐至汝大物恠云
打殺吾子許思恋又物貪行至无情度々打殺吾其　└十九丁裏
又落此地獄釜可経无量劫汝与吾先生母子也汝
速可助吾僧云可修何事問母答云只法花経可書
供養離苦生天云云

天和母事

廿一

昔天和云人具二疋女馬○追令行前一疋○行路上一疋
自乗後行是馬二疋ナカラ氷上顛倒数鞭打之不起云

（二一六）

痛打吾汝母也汝雖養育我尚吾物要有故作米一
石文書汝姉相借用不返死依其業令十三年間仕
汝也今已其米酬畢時吾此事云□也19○顛伏馬汝姉前上　└二十丁表
也汝乗吾即汝母也云時天和哭云実吾母御座前
立定室御座云シカハ母馬姉馬共還子子天和家サレハ地
獄餓鬼有情修羅畜生族也云ヘリ皆是生々世々父母
親子也

迦旃延事

廿二

昔釈尊為教化衆生阿難舎利弗目連迦葉等御弟
子五百人各分遣諸国迦旃延當罽賓国尓時迦旃
延云其国神国未見仏法名字日々夜々常猟狩所
作諸悪国也何教化之申給仏只可行言時迦葉延旃々
行至其国思切悪樹本援々枯然吾先行国王許欲　└二十丁裏
教化其行至王宮而国王出狩給時數千万騎衆出枝々
時迦旃延錫杖荷肩三衣一鉢懸臂立其前或人云
未曽見者出来此何人恠之奏大王々勅云只可殺
云云依之欲取頸時迦旃延云暫待大王可申事有聽
將至王前即王問云汝何人未曽見知吾悪人也汝

来此有極愚也迦旃延答云国王極能御坐吾極悪
人也大王狩御乍知前立行申給大王興宴経共具給
還王宮給此徳仙献能食物能乎問給イト能申給又、
献悪食物此又何問給此又イト能答大王云悪能皆
能云何問給迦旃延答云法師口竈口同也何不嫌
入腹只同意也申給弥哀憐无極時経数日迦旃延
大王申給吾九十日行女人所説法令聞云去給至
女人所居給女抜頭髪賣九十日供養九十日云又
詣国王許給王問云在何処食物又如何問給答云
為女人説法此女人即抜頭髪賣之令食申給時大
王見彼女言遣使召不參使者奏云彼女放光居端
厳美麗无双也申時国王又遣花輦此女放光王宮
来至大王出向居九重裏給本五百人后如螢此后
如日月寵愛无極終日竟早朝宮仕是迦旃延説法
故也其々国給弘仏法云ヘリ

└二十一丁裏

山寺百人僧事

廿三

昔山寺有百余人僧止住各修行佛法習学経教国
中人皆此寺僧常請或時十二十人或時四五十人

└二十一丁表

請此中有一人老僧歳八十有余也貧窮无福修行
佛法寺僧請用有此老僧不入僧数雖然請用有聞
度先剃頭沐浴可入請僧事待而己而衆僧軽賤更
不相交時其国大王設大法會請其山寺百人僧老
僧思此度已百人也サリ氏吾入衆数思又剃頭沐浴
借衣裳待此度不入百人数而此僧有一人弟子即
取師老僧思弟子云事尤道理也吾極恥カシト念入深
山投身時樹神受取此僧居木本時仏来説法給其
文云法性如大海不説有説ヒ是非凡夫賢聖人卒等
无高下仏説是偈時此僧證果成羅漢樹神又教云聖
人極愚也今還本山寺其所作清涼池蓮花開可坐
其云老僧如教還山寺其所速成七宝池開蓮花従
身放光坐蓮花上百人僧徒食飯酒得希施物各開
栄花之眉還本住山見吾等住所皆作清涼池蓮花
開中彼老僧放光居見之実不異仏如来百僧人達
云我等誤為佛法致无頼之咎願聖人免我等愚癩
無智咎利益我等給僧同音五躰投地作礼聖人為
彼等説此偈給百余僧共成阿羅漢高貴不貴下賤
不可賤一切衆生悉皆佛性有故也云云

└二十二丁裏

廿四　寺材木曳牛事

昔北国有大伽藍破懐顛倒其辺人為修理入山取材木時一牛出来十二年之間曳此木時万人哀此牛常曳之至江河水洗之此牛背有文其文云此事（牛イ）先生此寺住僧也アリ其故修理料米五舛借用買酒呑不返已死依其報成牛来十二年間可酬其借用米雖少酬（事イ）哀経十二歳有心人聞知之云ヘリ

廿五　俗人母負物微事

昔田舎有一人俗母置家登京入学衆其人家豊宜家稲積諸方出挙然其母貧窮也子積置稲十束借用之可返无力不返子帰来向母稲迫微不堪返之之田答雖母負所稲何不出云速汝出暴迫時村々里々人々哀此母或一束或半或一二把充出合力十五速（束イ）稲返ムト其母向子語云汝吾子也吾汝母也吾今十五束稲返吾乳房之斗百八十石三斗直速可出云亦汝居上迫吾々居下露地被迫汝定有罰歟云シカハ時則口吐血家付火焼死云ヘリ蒙恩不知恩者如斯云云

└二十三丁表

└二十三丁裏

尺尊大悲之事　太子抜眼事

廿六　昔有国王有一人太子道心无極薬方術无双又其国有一醫師如太子醫術可殺廻計時其州病患起人民半分死亡尓時大王哀民召件醫師可治此病患語方便給醫師答云生以来未腹立取人眼洗流可呑セシム人皆病止ナント奏時大王云我国始至他国普求誰人生以来未腹立人有仏外更不可有云云其時太子倒（側イ）居玉ヒテ聞此事白大王繪（給）自候ナラン抜取吾眼愈衆生病給時大王云縦生（下）衆死了吾又死吾取太子眼更不可有也太子此身无常也惜之遂死成土○

└二十四丁表

吾惜此身不可殺多衆生亦吾滿衆生願代苦衆生思誓有之遂成佛欲利益衆生身也猶吾子思食許此事給遇（遇イ）善知識事非小縁申給大王后五躰投地伏辷言吾子譲国位又死道代思ツルニ何故此事出来ソト泣哭給无限雖然太子發誓願言吾此度捨兩眼後生必成仏得其眼備三十二相八十種好利益一切衆生云抜兩眼洗水令呑法界衆生給衆生共呑其水病悉除愈无病自在也時帝釈来問太子言汝依何願捨兩眼要転輪聖位歟要帝釈卅三天王位

歟要大梵天王寂禅定之目度出下楽歟吾叶汝願言
時太子答云天上勝妙楽更不要只我成佛利益一下上
切衆生思也言帝釈言成仏道願吾力所不及也吾
来至此故汝兩眼如本入云令還着給其太子者今
日釈迦如来是也抜眼醫師者今提婆是也

└二十四丁裏

廿七

繪師金以卅兩修善事

昔有一人繪師得請行伽陽城有妻子有二人是置
於家行去妻子一年侍之不見二年侍不来十二年
云得金卅兩還来於途中修善根所至道心俄發問
一人僧云此寺以何等重物修善問僧云金有三十
兩修云ヘリ此繪師取出金献佛供養僧空手還本宅時
妻悅云何物持来速子共食ヨト云男答云金三十兩
有生々生々世々不失納蔵云ヘリ妻云蔵何在蔵云男
云還ツル路貴仏僧御坐已奉供養其実不失蔵云時
妻腹立云冬夜糸寒汝今来思夏日温苦吾男令来
見待然経十二年来民如得王闇如得燃思已汝何
卅兩金十五兩作善根残十五兩不持来乎其故為
養子共多借人物置也吾男来速返約束汝来極无

└二十五丁表

情无益也云闘諍抑汝訴官申令処獄云妻訴檢非
違使處尤道理也云又男何問其亦件供養之由陳
申又是道理也乍二人極哀也云男令得乗馬女懸
无價宝珠脱衣令得又国王聞食此事垂哀讓国位
給云ヘリ是則修善根諸天加護有加様果報得也

└二十五丁裏

廿八

百廿歳僧事

大荘厳論云舎衛国昔有一人僧歳百廿道心開發
詣佛所入道出家新僧五百弟子達仕此僧年老起
居苦取手足水利進不堪念煩吾入山投身思入深
山登高岩云吾非破戒仏奉仕思不堪只此身老无
心耐也云投身仏見之給以百福荘厳御手受取此
僧預阿難尊者給具之修行令發道心言阿難具此
僧行濱側若能女一人死卧大虫目出入鼻々出入
口見之是如何問申暫待令云言又行女負大釜行
路有又自入其釜其釜為猛火燃其炎登空十丈斗
也此女能者（着イ）自釜出自食肉又負釜行又返此行十
丈火柱有炎然上見之人形也有鉄觜虫百千万億
計取付此吸食見之過又大山高登二人敷草坐僧

└二十六丁表

問阿難尊者云於通道見者何等尊者答云汝聞始
死伏○人国王后也其落入海波打上伏大虫出入女上
自容能思愛故成大虫喰自容也次負釜女人自煮
返自食肉何問尊者云其先生人従者也時主人僧
処遣物於道別之食之僧疑之汝若犯之問時女云
吾若取生々世々自我肉喰身成云依其誓九十一 ㊀二十六丁裏
劫間食自肉得果報又次有火柱人形逆頭成十丈
炎燃登何人云答云其現在取僧物失用寺常住油
者无量劫間成燃焼走也云云又問山高大何答云此
是汝先生間骨也成犬野干作鵄烏鵄作蝼蟻虻時所
積非骨乎况復無量劫間堕四悪趣受无量苦患時
骨思遣言其立所親諸法无常證阿羅漢果云云

和頼多事

廿九

昔有一人俗名和頼多父母大富恣世間自在也時
和頼多出家成仏御弟子思向父母乞出家暇父母 ㊀二十七丁表
制之不許和頼多云吾出家不許飢死云三日臥不
食七日卧死云ヘリ或人云此君已明日死ナン見此許
出家申時父母已許出家時和頼多起居食軈剃頭

（三〇）

髪母取納詣仏前受戒云ヘリ父母語子云汝詣仏所一
季三度可来親子契片時不見汝肝心難堪速可来
云送遣然一季待不来二年三年待不見已経十二
年断三界惑成羅漢後白佛言約束仕父母所罷申
佛言善哉時和頼多到父所乞食父出見之云何○
法師思様来云打追逃去猶又還至門下女出見之
云今此立玉ヘルハ和頼多不御坐云答然下女還申立 ㊀二十七丁裏
僧已和頼多御座也時父母哭走出迎取之洗浄令
着我衣裳云然父母已金銀七宝積置和頼多前語
云汝留此可令領知之云ヘリ次本妻端厳美麗事如菩
薩奥出父母云汝見是人慕汝悲汝事砕心肝可思
留吾此戝宝可任汝意云ヘリ時和頼多云吾戝不要又
妻不要雖然此戝令得吾云父母皆戝宝与子時和
頼多戝宝皆積車持去流恒伽河語云世人依此戝
堕三悪道然戝宝吾身敵也不受用云昇空現十八
通去又到山林於樹下敷柴座居時隣国王出似狩
給至其樹下一人臣奏云居此木下僧已竹馬時御 ㊀二十八丁表
友達和羅漢多不候申国王仰云汝有何故出家シタルソ問
給依三事出家也申大王云三事○何答云其三者々上

王父母病能代給申不得代云○老人可死能代二者上
玉フヤト申其不得代云三者於地獄昔交衆生能代給
申其不得代和頼多云其事思見之実依難堪吾レハ
出家也申大王云汝昔思竹馬時友達也吾処有二
万夫人其第一譲於汝又譲吾国王位速還俗玉フ云
和頼多答云汝二万夫人不要又千国土不要只吾
成仏汝又一切衆生苦代皆令入仏道思計也云踊
在虚空現十八神反而去云ヘリ

└二十八丁裏

卅

恒河側貧女事

昔恒河カワノ側有貧女其辺有一神名恒河渇神此女
人无子致信心此神祈子随分備供物吾五イ六年間祈
之不得十二年祈之不得此女人向神腹立云吾十
二年間致志祈不令得子令懸屎尿糞穢焼失汝速
追拂云時恒河渇神詫云吾上四天此由白天王○
四天王又白帝釈給又帝釈白大梵天王給大梵天
王言可生人界天人有一人勸請彼下令宿彼女人
腹言件天人語云吾生下界出家成羅漢云ヘリ梵王帝
釈共言汝宿下賤之腹我等助成令出家満彼恒河

└二十九丁表

渇神方願言ヘリト云時天人下宿彼女人腹過九月産
其後此子可出家云母云祈求汝可蒙給仕之徳故
也更非本意言不許出家子云吾不許出家死云十
丈穿火地落入更不焼死又恒河深四十里有落入
不死以弓箭力カイ杖欲死不死時此男思煩云觸吾所
詮王后身吾即神被殺思入王宮凌礫后国王捕之
令処罪加杖木不當国王恠之給時有一人臣此男
前々事共念比奏之大王已赦免給サテ仏奉問此由仏
説言汝聞此男過去无量却生女人時国王有八万
夫人有八万采女其夫人歌々行道一男来夫人歌
加音歌国王驚捕此男急殺之時彼人白王此男夫
人歌又野人歌不知只行路愚加音也指无咎申王
依其辞免罪給乞免其罪人此男也依其果報生天
得楽生天得不死果報也依本誓可成羅漢也言乞
免一人咎善根已如斯況助多人罪乎

└二十九丁裏

卅一

五百王子事

昔有国王養育五百人王子大王有御行此王子達
立御前給時有一人僧於五百人子王上達御前曳琴

渡時五百人王子一度出家受戒大王驚給恠此事
給時一人大臣奏大王王子達御前一人僧曳琴渡
其琴音云有漏諸法如幻化三界受樂如空雲云音
聞給出家給也申其曳琴僧今日釈迦如来也五百
人王子者今霊山五百羅漢也矣

（三二）

人極貧買留无由捨買老母而至軍陳已吾方皆買
異国追取而行老母月夜朝暮悲子奉唱観音名号
献燈明懐観音御足願還吾子伏拜祈誓待二三月
不来老母之思実切也既異国豊業時至此男耕由
一人僧来問云汝何人男云吾耕田者也僧云汝此
所人歟又他国人歟男答云吾他国者也捨置老母
来此語本懐伸之僧云汝欲見其母否男答云朝夕
恋奉見思侍還定被殺思也云時僧云実汝聞吾是
観音也汝母勤迫吾間吾汝迎来也汝捕吾袈裟端
言如教男捕袈裟端思間見吾身負観音御皆即見
下吾母又有互母子見合容観音利益不思議事知
云実観音神力非安有如斯勝事乎又信心至所須
臾間還本国開喜悦之眉者也

内裏火災事（災イ20）

卅二　内裏火災出来始従国王大臣諸公卿皆集取出諸
賤物時一人有僧振首撫頭咲悦意々々能々云時
大王進問此僧云汝有何故吾无量賤宝見焼失振
首撫頭謂悦意々々汝致此火災汝已有咎言時僧
答云大王依此賤可堕三悪道今日皆悉焼失故遁
三悪道給事喜故云悦意々々也国王聞僧語尤有
道理无咎言人不離悪道沈論六趣一塵貯貪愛故
也云云

西国俗人事

卅三　昔西国有一人俗有母時異国軍起来數万兵国中
狩求有徳者置留父母兄弟有云皆買留此男只一

国王菓子事

卅四　昔有国王恒菓子興宴給殿守於池側見付菓子取
之奉大王王食此菓子給云自今已後只奉此菓子
若不奉献此可行罪過云云而敢亦可見出无術仍至池
辺哭時俗人一出来云汝何哭問殿守答云昨日此

池側得一菓子取之奉国王食此給又奉此菓子若
不奉可行死罪依之吾哭時俗人云吾是竜王也昨
日菓子吾置也大王食給吾一駄奉之而今吾イ令聞仏
法給云則奉一駄菓子吾不聞仏法七日内此国成
大海云時国王大臣驚云従昔至今於此国仏法云
事更不聞見若吾国内又他国仏法云物有速令得
吾言更不能得之事而国有一人翁云未曽仏法云
不見聞俱翁祖父傳云吾幻稚之時世佛法云物有 三十二丁表
聞申亦翁宅コソ奇異事候放光柱一本立是何問此
昔仏法有時立柱也申傳侍奏時大王取其柱破之
見給有二行文八齊戒文云王取之佛法信給シカハ十
方放光利益衆生其国中仏法槃昌国家豊饒也云

廿五 舍衛国勝義女事

昔舍衛国有九億家其中有一貧家勝義女云者夫
婦共輪九億家乞物口活仏已為教化○等遣迦葉彼上
々々至其家乞物勝義女云雖聖世无意人哉吾廻
此九億家乞物生養身也何来吾許乞物乎更不可
得其物云ヘリ時迦葉尊者云只有物令得給云更令得 三十二丁裏

无物答迦葉云猶一塵也令得矣時勝義女呵責夫
云汝何无心乎供養聖云ヘリ抑汝吾中年比麻衣一有
之以之供養云聖云ヘリ夫答云汝極愚也此衣只一也吾
出時汝裸也汝出則吾又裸也已断汝与吾命云妻
云拙哉汝此身无常也養育終可滅吾貧窮苦豈非
先生報乎吾此藤衣施此聖云能々誘夫即脱衣疊 疊イ
以語尊者去聖塞目吾赤裸也勿見吾云恥迦葉塞
目不見之女人近寄此衣与迦葉々々取衣入鉢呪
願還佛所奉佛此由懃奉語仏給時仏放光自東方 三十三丁表
始奉誦十方佛給諸佛皆集給而供呪願讃歎之時
波斯匿王佛光驚詣佛前目連尊者問光瑞旨仏勝
義女根本語給大王流涙脱自着給衣裳勝義夫妻
為遣其家又宣旨云又吾国始五百中国又小国官
物皆悉積買匿勝義女家其納取可来云勝義已大王
為捻大主恣天下云ヘリ

廿六 深山里俗人事

苦昔深山里有一人俗具容顔美麗妻夫婦共年比互
過時国王求能女天下作勅宣求給更不能得能女

（三三）

時一人有臣下奏其国山里能女侍奏国王軈下宣
旨令至件山里俗人問云爰人不来處也何人云便者使イ　三十三丁裏
答云汝家有美麗女奉国王吾等宣旨使也更不可
澁惜云時俗人云吾住此山无所犯農業勤不致有
何故可召取乎使者答云汝雖无所犯住王地何可
背勅宣云搦取去即惜夫婦別而去其女王宮將詣
王見此女給喜居九重宮終日竟夜不早朝給但経
日月此后更不快敢不咲給大王思惱作管絃伎樂
緩歌穏舞見此不咲作比翼連枝之契猶冷思仍大
王族問云汝民如得王毒蛇如入王宮有何故戯咲
意无乎后答云君天下主御座劣吾下賤野人夫給
已彼夫口気香勝含栴旦沈水国王申劣吾本賤夫　三十四丁表
給依之不咲言時大王又可求其夫下宣旨給已求
得之將詣王宮后云今吾夫參爰匂聞言即詣王宮
一理里イ間栴旦沈水香満大王將此俗参佛前奉問佛
有何故此俗居一里間者香気満願仏説其因由仏
答言此俗先生樵夫也荷薪出山時雨降シカハ路辺有
破寺其縁暫居止内有一人僧焼香讀経見之一念浦
山敷僧哉念依其果報今生已成口気香身也當来

（三四）

必可謂香身佛言人焼香見之浦山シト思スラ尚佛受
記給也何况身功徳乎　三十四丁裏

人天蓋事

卅七　昔或人恒具天蓋見人奇之奉問佛々説言此人先
生々食貧イ家下賤也為乞食口活居住路辺于時雨降
其前人行過留旧破笠施此人依是因縁依今生得果
報云云

摩竭陁国大王五百人子事

〔卅八〕[21]昔摩竭陁国大王養育五百人王子成人各々施威
勢恣世或時自他国軍起来已欲打取吾国々王遣
数万騎軍兵相罰已負還欲打取時王宮騒動逃去
給時五百人王子其太郎云炽枕太子色黒如墨髪
赤如火燃形見悪如鬼仍方丈部屋造卧置人不見　三十五丁表
此太子聞王宮騒問乳母云吾家騒動有何事云ヘリ答
云君不知給哉他国軍起来欲打取吾国大王々子
他国逃去給ハントス君何方流浪給云爐枕太子云事不
有事有何速吾不告吾只今追還言起居給乳母此

由大王申給王意不入給非賢事給時太子出父大
王御前吾速此軍追返申給召人言吾祖父轉輪聖
王御弓在此内裏武家白速持来臣家即乞求奉太
子々々喜取弓懸絃々打給其声已聞四十里喩如
雷振此弓大箭一手又宝螺一付脇只一人出王宮
給父大王母后共哭留之給言入軍陣者帰来事方
之一也形雖見悪汝吾子也速可留教訓給只許吾
給云速進出給已至軍陳前先吹螺給一兩度也數
万騎軍兵聞螺声皆顚倒又作弓絃打驚此声万九
逃去太子言已弓絃打已以如斯况放一失千々万
々人残乎言怨敵皆退散无敢敵者太子還王宮給
大王歓喜言吾養育五百人子不打返此軍只此子
一人吾子也云ヘリ時太子歳五十歳也始令嫁娵又大
王思給下人尚不近何况好人吾国人皆是知形見
思乞求他国王娘令合思然晝不見思夜隠令合然
間経日月後大王思吾○百人雖有ヨメ不見也吾設五上
花逍遥欲見此娘其月其日已花逍遥可有言時キニ
諸婦達整衣裳袖口綾羅錦繡巻身所従眷属衣裳
染帳青黄赤白雑色浅深色整已至其日各南殿前

└三十五丁裏
└三十六丁表

千戴中花翫也或聞虫音詠吟或誦詩賦延年或歌
々極戯父王巻上玉簾母后蓑水帳格還被物禄物
如雨如雲天下見物也何事勝此乎余五百人婦達
妬燼枕太子后咲之云何彼君何一人延年不給云
又合婦云夫客儀云太子妻聞此事夜中還本国夜
明太子入深山投身時樹神来受取之置平地帝釈
来授一王給也又云此王納髪中持給引賛作端厳
微妙之身也太子云我授玉給何人吾愚癡故无覚
哀若佛来給若仏若御イ坐吾示先世果報時帝釈答云
吾是帝釈也示汝先世因汝前生貧人子也乞食来
乞油時汝父清油施仏云汝清油惜置不浄油一夕
奉仏依其功徳父生国王汝生王子而不浄油奉佛
依其報生形見悪身吾即帝釈也汝髪懸玉言立去
給太子放光端厳无双也時王宮人尋跡来相値太
子云若此仏歟若吾君太子歟申太子云吾汝主也
太子思吾放光玉所為云取玉置外成本身又懸玉
端正放光太子即還王宮給父王出向歓喜踊躍悦
涙身餘経数日太子行本妻所具千乗万騎時其舅
国王悦之聟譲国位太子具妻還吾国給尓時又父

└三十七丁表

（三五）

（三六）

徳サ王ハ如サ王[22]讓国位已成兩国大王恣天下一夕油
以奉仏功徳サヘ如斯也云云

大臣子事

卅九　昔有一人大臣有一子後父極貧従本无業无所憑
只思得事吾学盗路返世思所詮吾先不行小人家
行国王所盗賜戝物已思入王宮王宮物甚多取軍
之置間咽顛倒側灰水有捨之取食呑思吾可食如斯
物只其吉事思置物還去時大王立側見此言汝何
置物去云ヘリ即答云吾雖貧者意直若食件灰水等意
見不取此戝有思答時大王哀愍垂給即父大臣位
成給ヘリ云云

」三十七丁裏

玄遙紫丹事

四十　昔有国王有二人后妃一名玄遙二名紫丹所従女
自予還来云我聞至貴処法其甚深不可得座居説
云ヘリ后云今俄无高座只説言女言君居上給吾居下
説法為君有咎更不可説云后云我許五百采女有
各衣一領充脱[23]疊為座云シカハ各脱衣重置此女上其

」三十八丁表

上令説法百□□也[24]后并五百采女聞此文生天上得羅
漢果云ヘリ

以千兩金買一行文事

四十一　昔有一人俗以千兩金買智恵云更无賣云人行天
竺買思家有若妻置之行数日也吾留守母此妻能
々守護給云置天竺行去過流沙葱嶺渡百万里波
濤至天竺以千兩金置得一行偈其文云長慮諦思
惟不應率妬行今日雖不用後當有用特文買得此
文已還本国到家竊見我妻男卧仍欲切頸猶還三
度此度切思又退還思惟吾渡百万里波濤以千兩
金買得文其文既云長慮諦思惟不應率妬行云ス吾
金従不可成思暫立思惟間見起去我母着烏帽子
成俗人卧見之振首偈文弥信歡喜ス云ヘリ

」三十八丁裏

鷹放鵜事

四十二　昔鵜被取鷹時鵜本誼鳴云惜哉捨吾家死云時鷹○○
放之鵜至本家塊許悪口鷹罵詈時鷹起嗔恚又欲
取時鵜逃入土穴塊角衝胸死鷹有恩雖免鵜不知

（此アイニヲクヘシ）

此下ハ上有ヘシ
○○鵶問云汝家何云答彼由畝塊下也云此鳥諠仍鷹○
恩罵詈鵶自死蒙恩不知其恩者如斯花厳経云不
知恩者逢横死文此意也

└三十九丁表

波羅奈国貧女事

四十三　昔波羅奈国有一人貧女色形見悪事如鬼神女思
吾先世不修善根今世形悪又貧窮身也今世又不
修善根後世亦後如是吾何修善思更无術所詮賣
吾身奉供養仏陀僧イ思定行歩更无買人爰有一貧家
買云賣身奥地音買云出々女已奉賣云亦家主問
云買汝身兎角センニ汝云何云ヘリ○答云只奉賣身可任女上
御意答抑我身有痛年久而食人温肉可愈云抑買
汝其身剥皮截肉欲吸血也女答云兎角御意次第
也云時銭三文買女取銭云三日間免暇給乞已免
此女登山寺奉佛僧遂供養一人僧誦経女文イ聞此偈

└三十九丁裏

還主家洗清身至主前卧時病人起挙即取釵割切
其身而先問女云抑汝日来成何事云ヘリ女答云吾前
生心拙不修善根今生貧女今世不修善生々世、
々又如此仍銭三文身交易奉供養仏僧也答病人
云抑佛者何様者答云仏申具三十二相八十種好
給見者歓喜无厭徳備難化能化住願一切衆生垂
一子慈悲人也云云病人云然何故事歟言ソト問女答云仏
説甚深无量法門給云病人云而汝持其文歟語吾
令聞云ヘリ時女以偈令聞云如来證涅槃永断於生死

└四十丁表

若有至心聴常得无量樂文女説此文病人忽病愈
女人氏々断无明之惑證初果入仏道云ヘリ

屈太事

四十四　昔有屈太云人至地獄有二人獄率不慮外屈太到
地獄釜問獄率云此釜何料云獄率云此釜屈太云
人可堕釜也云屈太云吾コソ其然幾焼問獄率答云
罪人可堕釜无量劫間被焼此釜屈太哭誓云若如
吾極罪而可堕此釜者願吾一人同代其身苦此釜
経劫数閻魔獄率蒙呵責答贄鉄25丸只吾一人答之
令彼生天令入佛道誓躍入釜中地獄釜忽破蓮花

└四十丁裏

開ソト云云

熱イ

26

田舎僧妻事

四十五　昔田舎有一人僧具美麗妻尓時国王求天下佳女
給有人白大王其国其卿端厳美麗女侍大王悦之
即呼給又国王云人夫婦期百年契相分哉若召女
定男交山野先召取夫可被罪歟時国王使至彼僧
処讀宣旨僧云我无所犯有何故可召云ヘリ不云將王
宮詣大王見此僧給刑之无指咎吾可追処有之思
食言汝従此丑寅方四十里行有池其○有四種蓮池上
花七日内取来賜褒美抑也時此僧受国王仰帰宅
其妻乞食物不食居女問云有何事不食也答云有
国王宣旨即語其宣旨云時妻云只可食云ヘリ後女云
如聞彼處鬼神多有也池大竜巻花茎惜花也行人
一人无還事悲哉汝与吾乍生欲離千年契約従為
鬼神被奪吾家独残留有何益吾与汝共死哭時夫
誘云千年後吾代汝身思シカトモ已遇王難已違其本意
何乍兩人死无益猶此留此時女人訓云其路有諸
鬼若問可益吾娑婆世界釈迦牟尼仏御弟子也可
習答□27何文云南无帰依佛南無帰依○帰依僧法南無
持此経答訓畏七日粮与夫已出行夫見返妻今見

褒イ
上
文歟
笠歟
上
カ
妻歟

」四十一丁表
」四十一丁裏

（三八）

送夫悲別互不行遣然非可留歩行漸已四日云至
門守所鬼悦欲喰先問云汝何来ソト問答云吾娑婆
世界釈迦牟尼佛御弟子也云鬼云吾爰経數千歳
未曽聞釈迦牟尼佛云名吾今始聞佛御名離業道
轉鬼神身仍免汝是奥又有鬼又如是可云訓放又
行如言有鬼又喜欲喰汝抑何人問如前答鬼云持
何法門云即誦南無帰依佛南無帰依法南無帰依
僧時喜云吾過无量劫未聞誦三帰法門喜相逢
汝聞法門轉鬼身生天汝是奥行者大毒虵不知善
悪定呑害汝暫在此取件花令得汝云即取四種蓮
花授云国王仰七日云ヘリ汝出宅今五日也残日不幾
汝乗吾背云シカハ已乗即至国王門下置去此僧以蓮
花奉大王々々奇之問給如上件片端懃語申大王
聞此事給甚深歓喜云吾劣鬼神害汝取妻思鬼勝
吾助汝命剰与蓮花返吾永汝并免縁女速還可受
持三帰法門言云ヘリ

法性寺住僧事　此回不審也異本可見

四十六　昔法性寺有上座僧其寺修理料鐵三廷借取不返

」四十二丁表

死後詫人云吾此寺鐵三廷借用不出死依之堂戌
亥角柱臂木中虵有被迫縛如板相構取出修善根
云ヘリ一塵用仏物者已受如斯生云ヘリ

」四十二丁裏

波羅奈国女抜眼事

四十七　昔波羅奈国有一人俗悪逆不知仏法妻云普好而
雖有道心随夫或時不慮外遇一人僧竊法花経十
余行讀得夫聞此事云和御前業コソ極貴云出去返
来云吾道行極若能女死卧ツルカ目極告穿取和御前
眼極无愛見悪抜賛云ヘリ妻思吾今日死事一定也被
抜取眼不可生哭乳母云サレハコソ和君此経讀給ソト云シカハ
遂従成給云吟女人云此身无常身也惜遂可死従
朽損地穢同法花経賛吾身云乳母共啼合然間夫
居客殿音侘呼出妻々思家内不可隠上天不可入
地雖逃不可逃吾今死思　今參許答歩出夫取妻
伏膝上抜眼取其身引捨路頭側人破薦筵令得是
敷道辻○過卅日一人僧来問云汝何人何无眼卧々上
云女件由始語僧聞此由山寺將舞九十日間養育
終此女人夏給夢見吾讀経妙法二字作日月空下入

」四十三丁表

吾眼目見夢覚見上欲界六天樣々勝妙樂如見掌
中見徹也下閻浮提二万由旬見透无残等活黒縄
乃至无間地獄最底如見掌中物語僧喜云汝已法
花経十余行功力依得其報云ヘリ

」四十三丁裏

俗人国王被免頸事

四十八　昔有国王一人臣致大咎仍王欲取其人頸此人王
言免七日暇給[28]申乞免給此人還家一心奉帰依三
宝七日朝詣国王所時大王勇猛人以令取其首此
人現仏相已取首不能取大王又放五百酔象欲蹈
害此人放金色光仏成手指出五師子相象速逃去
仍大王免此人咎令信佛法僧給云ヘリ

越前国猿経書事

四十九　昔越前国佐伽郡普廣寺住僧書法花経時猕猿一
疋来僧前良久居僧問云汝若欲書此経云猕猿頷
之汝若然求殼来云猕猿去経一兩日剥木皮持来
時此僧吾書経指置此木皮料紙先書猿猕所望経
猕猿喜之日々入山穿野老穿山芋取菓子供養此

」四十四丁表

僧已五巻書了次日午時施主猕猿不来僧恠求山
峰岩畔芋掘穴指入頸死　僧流涙懃訪之還其猕
猿経力故生天三年其国守護成有喜瑞故先至彼
寺遇彼僧陳語昔本懐彼僧年九十余也僧与守護
俱哭取出件経見朽損タリ[ト]云ヘリ此本経書讀之又千部
法花経書供養畜生已如是況於人間乎

貧女地蔵菩薩仕事

五十　昔有一人貧女為農業恒取田殖力手常食取用返
口活先以其上分朝夕奉地蔵菩薩然間田主廿四
人一日可殖由催促貧女依有道理此事雖背女其
日暁起炊飲如例奉地蔵菩薩[廿七]返居云今日可殖田人
廿余人也吾但二人也何方打追思悲先世吾造何
業得此果報願十方三宝相助吾今日迫給申哭吾
一人償之思然間自然人々来出一時二時間殖田
了還家女居思今日廿余人為其饗事恐思隠居時
廿余人各来或白米一斗或一二斗或四五斗志収
還了各々云殖償所作速事喜還了女思吾今日多
人欲迫打事思々外有喜思又炊飲上分奉地蔵菩
薩奉見御身躰成土侶立給爰地蔵菩薩得貧女志
給一時殖廿人余田給云事時貧女流喜涙五体投
地奉仰云ヘリ

└四十四丁裏

└四十五丁表

（四〇）

貧女吉祥天女仕事

五十一　昔有一人貧女荒野造柴盧居住口活依難過先世
果報恨拙事卧其夜夢僧一人来教云汝可仕吉祥
天女夢覚後逢人乞一枚紙書顕吉祥天女御身躰
礼拜給数日菴辺有牛不去里村觸此事治飼更牛
主云者不出成農業時村里人借用此牛以價為ス
先自余牛二二段一日所作此牛一日七八段耕作
仍人々借此牛倍其價又此牛至処田畠ハ[29]生栄事餘
耕作十倍依之其聞人々只此牛足蹈入サセント競来借
之時此貧女成福人所従眷属数万人出来任意被
使也此牛三年間能々連日叶事无極年終至卧死
此女人流涙哭悲還家中書紙奉見吉祥天女俄破
血付是知吉祥天女成牛給云事仍為其牛報恩酬
徳云ヘリ

└四十五丁裏

誦経延命事

五十二　昔有一人翁欲修行仏法家出杖金三百兩入篭持
或相人見此翁過七日可死我具此翁取金思相人」四十六丁表
語翁云汝貴發道心修行給吾仏法修行志深汝共
修行云ヘリ翁具相人六日云思外修人小善根処至此
金取出五十兩誦経已七日命延相人思吾還吾家
有妻子極不審思惟亦思返猶同七日具取金可還
思共具五日云又修善根処至又此金以五十兩誦
経翁又三年命延其時相人云吾汝共仏法修行思
事極辱カシ還去云ヘリ時翁云何不経幾程違（違）約速給若　程イ
自无便揖見給実非本意云時相人云実吾非發堅
固道心推察汝杖三百兩金入持而汝七日可死相
有之而初経誦処已七日命延吾還思猶今七日具」四十六丁裏
可死取金還思此30度誦経又三年命延猶雖具行亦
後如是仍欲還而□31翁云汝依金此吾具給ケリサテハ今吾
殺害金不取給事其極喜也以此金佛法修行便セント
思而戝速可殺命不如有本意令此金云残金百兩
令得相人其翁令釈迦牟尼佛也其相人當来旃勒
仏也云ヘリ

南天竺五百人鉤人事

五十三　昔南天竺濵有五百人鉤人朝夕以殺生業過一生
然五日間件魚不被鉤六日云鉤得一大魚其身大
具十七人首鉤人見之驚逃去尓時釈尊在鷲峰山」四十七丁表
見彼魚速其魚処飛行給佛魚問云汝有何故身極
大具十七首魚答云吾先生々人所知有作僧仍随
分得人請登高座説法其高座側僧有十七人吾即
問汝等吾説法貴聞問シニチサ（イ）兎角不聞得云時吾汝
等畜生哉何説法貴不聞思云恥依其業九十一劫
間得此果報而其業漸尽禽令此鉤也吾令恥僧業
已盡又可学経教結縁切有之佛證知給申佛過現
未事能々知給人間此事為令聞知此大魚過去本
源令明給也其大魚并五百人鉤人共奉見仏罪障」四十七丁裏
消滅生天上其魚者當来旃勒佛也五百人鉤人者
今五百阿羅漢人也云ヘリ

鳩睒旃持経者事

五十四　昔有（鳩イ）睒旃国有一人俗後母後出家入山修行佛法
成持経者過年来或時大山府君来而聞経時持経

（四一）

者問云汝何人乎答云吾是大山府君也為聞汝経
来云ヘリ持経者又問汝サテ獄衆コソ有ナン吾母在所知給
問答云在等活地獄持経者云而汝吾將行給云大
山府君以通力具持経者至等活也地イ獄令見其母々
火灰如非人形僅聞其声云此地獄苦患難堪従首
徹骨髄従髄徹趺難堪事无極持経者問云吾母何
問給答云此地獄苦塵計非苦別女已後至今日吾
子世争有思意実徹骨髄破首如也此地獄苦只千
分一分不及云云子持経者聞此語留其地獄誦経母
并其獄中无数億罪イ衆人皆共離苦生浄刹云ヘリ

└四十八丁表

天竺賢直事

五十五　昔有一人法師盗人也云賢直凡天下所有人物取
用不被知人名人也而経数年然国王御王一果已
盗去諸公卿大臣集尋求不能得一人臣下家歟有奏曰
此玉即賢直盗取申時国王云賢直已諸野人也来
吾所不可取王言時臣家亦白云猶賢直召可被罪
彼法師打不打又射不射者也只　和誘可取申　時
大王作勅宣給使者已至云汝已住王地速可随国

└四十八丁裏

（四二）

王仰云搦取將詣大王御覧不宛罪但呑一提猶已酒イ
醉卧仍令着天冠手巻入急造作天上目出度様喩
如喜見城随王女采女等極奏美イ麗厳好首被天冠徹
妙神妙賢直前令得醉覚見吾身已天上人形也居
処有采女捻不異天上作法時奇思問件采女等云
吾身已人界野人也睡眠間生天上汝等何云采、
女等答云汝已中天竺盗人賢直也而大王御玉盗
取依生天上也云時賢直恠思盗生天上目出得果
報然盗可有事有ナント思ヘルカ又打還思吾講演法花経
所行聞天上人目出度講師言シカハ猶恠思見件采女
各目度仍猶人有謀ナリケリト思申吾更不盗取国王御
玉君猶疑思食此天上目出厳取返給申時大王聞
此事言賢直更不盗吾王言其天上荘厳等并采女
眷属皆共永免賢直也云ヘリ

└四十九丁表

猟師取鳶事

五十六　昔有一人猟師取五百鳶入籠養之日々一宛殺食
之其中有一鳶思吾飛行四方事任意極天尽地得
自在而被込篭内暗天地已入死門不知今明日思

└四十九丁裏

之此又先生業因所致也雖得食此身更不可過明
日命願十方三宝相助吾給思惟不食令経数日然
間身疲細成仍自篭目得出事飛行事自在事願力
故如本也吾還本篭鳥共許欲語告此此理速飛至
残鳥共告云汝等極愚也食物為助命也汝等止食即
奉念十方三宝如吾出篭中存命得飛行自在教シカハ
鳥共随其教皆出篭如本得飛行自在其教一鳧今
釈迦牟尼仏也受教鳧者今五百阿羅漢也云ヘリ

林間録云潭州道吾山有湫　北人呼水池為湫毒
竜所蟄随業觸波必雷雨連日過者不敢喘慈明与
泉大道同游泉牽其衣曰同可諮(浴イ)慈明掣時経去泉
解衣躍入霹靂随至腥風吹雨林木掀播慈明蹲草
中大驚意泉死矣須臾晴斉忽別(引イ)頸出波間笑呼曰
囚[32]
又掌衣坐融峯頂有大蟒繞盤之泉解衣帯縛(縛イ)其腰
中夜不見邃明策杖偏山尋之帯縛梧松之上盖松
妖也誠是无為閑道人家風如斯豈是凡愚之所及
耶

」五十丁表

寛永第十癸酉　四月四日　宮谷談所書之耳

」五十丁裏

解説及び本文の注

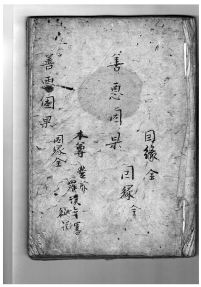
1　小林本『百因縁集』は電子化資料（ＰＤＦファイル）が存在している。下記のアドレスからダウンロード可能である。http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/cgi-bin/wakan/wa.cgi?i=k37（二〇一九年十二月確認）。

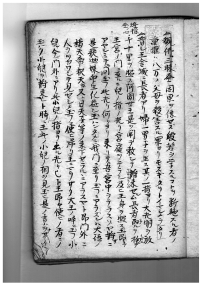
2　中根千絵『今昔物語集の表現と背景』所収（二〇〇〇年、三弥井書店）。

3　中根千絵「名古屋大学蔵本『百因縁集』の成立圏（目黒将史編『資料学の現在（シリーズ日本文学の展望を拓く5）』所収。二〇一七年、笠間書院）。

4　和田恭幸「説教と通俗仏書」（『國文學』第四十九巻五号所収。二〇〇四年、學燈社）。竹ヶ原も『善悪因果』と名付けられた肉筆本を所有している。表紙に「豊前」、後半部に慶応元年の記入が見えており、江戸末期に作成された説教資料と考えられる。本文において紹介した絵師の説話も収録されており、こちらは『大智度論』を訓読した上で細部に改変が加えられた本文となっている。

（四三）





※上：表紙　下：一丁表　竹ヶ原架蔵本

5　後小路薫「増訂近世勧化本刊行略年表」（『國文學』第四十九巻五号所収。二〇〇四年、學燈社）。同表に依れば、本書が書写された寛永十年以前の年記を持つ勧化本は四冊である。

6　土屋賢泰「二　日蓮宗の小西・宮谷・細草檀林」（大網白浜町史編さん委員会編『大網白浜町史』第三章第五節所収。一九八六年、大網白浜町）。

7　前出、注3中根論文。

8　前出、注3中根論文。

9　佐原作美「三宝感応要略録と今昔物語集について」（『駒澤国文』十二収録。一九七五年、駒澤大学文学部国文学研究室）。

10　底本 。経題や護符の頭に記される形（中村元『仏教語大辞典』「以字点」、一九七五年、東京書籍、須藤隆仙『世界宗教用語大事典』「以字点」、二〇〇四年、新人物往来社、参照）。

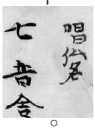
11　底本 。「録」の誤記か。底本に従い「縁」とする。

12　底本 。裏から「本通寺什物」の字が見える。本通寺については特定できず。朱印の文字を墨で塗り消したと思われる。

13　底本 。虫損か。残画から「尺迦」とした。

14　底本 。判読不能のため「□」とした。

15　底本 。「妬」の異構か。傍注に従い「妬」とした。

16　底本  。第七話の話数表示は、他の話数表示と異なり一字下がっている。

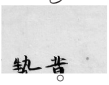
17　底本 。「或」としたが、あるいは「域」の省画または誤記で、「サカヒ」（『字鏡集』）と読ませるか。

18　十七話本文欠。書写時の欠落か、元となった資料に存在

していなかったのかどうかは特定できず。底本目次には「長者家人物員事」との題が見える。

19 底本 。誤字を擦り消したか。

20 底本 。異本注記に「災」の異体字「灾」。本稿では一部の異体字を通行の字体に改めているため、「災」とした。

21 本文、話数表記無し  。

22 底本 。誤写か。

23 底本 。残画と本文の内容から「脱疊」とした。

24 底本 。一文字目の「百」と四文字目の「也」以外、判読困難。

25 底本 。「鉄」の異構あるいは誤記か。文意から「鉄」とした。「熱鉄丸」の文は『長阿含経』第十九をはじめとした経典や、『経律異相』といった仏書にも見える。

26 ケシアト有り。

27 底本 。判読不能。頭注に見える「習」の誤記か。

28 底本 。残画から「申乞」とした。

29 底本 。「畠」の欠画＋片仮名の「ハ」か。

30 底本に隣の行にかかる擦り消し有り。 「此」とした。

31 底本 。虫損か。仮に「而」とした。傍注は判読不能。

32 底本 。『大漢和辞典』二二九九に「クワ／ワ」として「船を引く聲・かけごゑ・又、力を出す聲」とある。

（文責：竹ヶ原）

（四五）